

解体・リサイクル 最前線にフォーカス

西日本最大級の受け入れ規模 昇和の北港リサイクルセンター



がれき施設

非登録事業者に搬出した場合は、発注者・元請け業者は最終搬出先までの確認

「北港リサイクルセンター」は、大阪市此花区梅町の大阪湾に隣接した場所に位置する。敷地面積約2万4000平方メートルに西日本最大級のがれき破砕施設（ストック量6000立方メートル）、建設発生土（残土）の一時堆積場（ストック量7500立方メートル）を併せ持つ、岸壁付きの施設だ。

近年、都心部で主流となりつつある「ブロック解体」により発生する特大がれきやALC産業廃棄物にも対応した施設であり、あらゆる要望に対応できる。また、近年多発する自然災害により発生する「災害廃棄物」問題についても国や行政、全国産業資源循環連合会、大阪府産業資源循環協会などと情報交換を図り、対応可能な準備をしている。年々逼迫（ひっ迫）した状況にある建設発生土（残土）についても環境負荷の少ない海運を主体とした他県の埋め立て事業などへの有効な転用に取り込んでいる。

ストックヤード運営事業者登録制度について

2021年7月に静岡県熱海市で発生した土石流災害を受け、盛土規制法が施行されるとともに、建設発生土（残土）が適切に利用・処分されるよう新たな制度が創設された。



北港リサイクルセンター



ALC施設

が必要となるが、登録事業者に搬出した場合は、登録事業者がその後の管理を引き継ぐため、発注者・元請け業者によるその後の確認は必要ない。登録された事業者の一覧は、国土交通省のホームページに掲載されている。これまでALCは安定型最終処分場で埋め立て処分されていたが、同社ではALCを破砕・異物の除

去・粒度調整することにより、土壌改良剤の製品化に成功した。大阪府の廃棄物再生事業者に登録され、製品は大手ゼネコンのさまざまな現場で使用されている。岸壁には1時間当たり600立方メートルの土砂揚土が可能で重機を配備しており、建設発生土（残土）のみならず再生砕石需要にも対応した施設である。

北港リサイクルセンターを運営する昇和（本社・大阪市港区）の佐藤昇社長は「近年、環境問題への関心が高まり、廃棄物削減や資源の有効活用が社会的課題となっている。こうした状況を踏まえ、当社はSDGsといった持続可能な社会の実現に貢献すべくリサイクル事業を展開している。従来は廃棄されていた資源に新たな価値を見いだすことで、環



境負荷を軽減することにも、地域社会や企業にとっても経済的メリットを生み出す仕組みづくりを目指している」という。現在は、がれき類（コンクリートガラ・ALC・レンガ・石・木くず）、建設発生土の処理に取り組んでおり、品質管理や効率的な流通体制の構築に注力している。「今後は災害大国である日本で起こり得る災害に対して、地域や行政との連携を強化し国土強靱化計画に関わる事業を展開していき、循環型社会のモデルケースとなるような仕組みを実現していきたい」と語る。